

金沢大学法学部がヘイケカブラの復活に向けた農作業支援や調査研究を実施

< 石川県 >

市町村・集落の名称	白山市奥池地区
協働の相手（企業や大学等）の名称	金沢大学法学部大友研究室
仲介者・コーディネーターの名称	大学コンソーシアム石川 白山市
協働のポイント	白山市が地域振興の位置付けでコーディネーターとなり、石川農林総合事務所の支援のもと、生産者の熱意と大学側の地域貢献へ取り組む姿勢が円滑な協働へと導いた。
協働のきっかけ・経緯	平成19年 1月：白山市では、白山麓地域の振興策として、学生参画事業をいくつか抽出し、その中でヘイケカブラの復活が盛り込まれた。 平成19年 3月：大学コンソーシアム石川の地域課題研究ゼミナール事業へ申請する。 平成19年 6月：地域課題研究ゼミナール事業が採択され、生産者、大友研究室、石川県及び白山市の協働によって、活動が始まる。
取組の具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 播種、間引き、収穫などの作業に学生が参加 ・ 料理店にヘイケカブラを提供し、試食会を実施 ・ 独自に調理方法を研究し、試食会を実施 ・ 地元古老に対する聞き取り調査の実施 ・ 4者による調整会議の開催
農村地域への効果	ヘイケカブラは出作り地での栽培を主としていたが、里山（奥池地区）での栽培や、遊休地（久保地区）の活用などにも取り組むようになった。しかしながら、生産の拡大や加工品の開発などには至っていない。
都市部の主体（企業や大学等）への効果	学生にとっては、様々な体験活動や調査研究活動、生産者との交流などによって、通常、大学では学ぶことができない知識や技術を習得できた。
仲介者等の役割	各種活動が円滑に実施できる環境作りと、その成果となるマスコミへの露出を白山市が担当した。
今後の課題	大学側が永続的にヘイケカブラを調査研究材料としていくことは不可能である。
関連事業（国・都道府県等）	石川農林総合事務所の「地域に埋もれた特産農産物の復活による白山石川野菜の育成」